

特230
422

昭和三年版
電話地理
全



始



特 230
422



昭 和 三 十 四 年 版

電 話 地 理

全



電話地理

第一章 名古屋市

一 地 況

丘陵 岡や山

名古屋市は中部日本第一の大都會で、西北は濃尾平野に連り、南は伊勢灣に面し、東は木曾山脈に屬する小丘陵に接してゐる。

井然 形が正しい

この地は三百餘年前に徳川家康がその子義直のために城を築いて居らしめてから、次第に發達したもので、市街は概ね井然として美しい。道路の中でも本町通り、廣小路通り、岩井町通り等は殊に整つてゐる。

五ヶ町十一ヶ村は清水町、枇杷島町、呼続町、愛知町、千種町、中村、八幡村、荒子村、杉村、金城村等である。

大正十年に元の名古屋市に接續してゐた五ヶ町と十一ヶ村を併合し、大名古屋市と稱するに至つて、その面積は十方里近くあり、人口は八十万を超えてゐる。

名古屋市は中區、東區、西區、南區に分けられてゐる。本町通りより

東、廣小路通りより北を東區とし、本町通りより西、廣小路通りより北を西區とし、新尾頭より熱田方面一帯を南區とし、最も繁華な中央部を中區とする。

二 産 業

窯業
陶器製造

名古屋市は地の利を占めてゐて、物資が豊で生産費が少ないので、水力電氣を利用するに便利であるため、工業は非常に發達し、機業、紡績業、窯業、その他機械工業が盛んで、織物、綿絲、メリヤス、陶器、マツチ、車輛、軍器、時計、扇子、提燈等を多量に産出する。商業も亦頗る發達してゐて、愛知縣内は勿論、静岡、岐阜、三重、長野の近縣を始め、關西地方や關東地方との取引も盛んである。外國との貿易は四日市、神戸、横濱を経て行はれたり、直接名古屋港でも行はれてゐる。

三 官廳會社

名古屋市には官廳、學校、會社、銀行、工場等の大きいものが多數にある。

官廳としては愛知縣廳(中區新榮町)を始めとし、第三師團司令部(城内)、市役所(中區新榮町)、控訴院(東區主税町)、地方裁判所(同上)、區裁判所(同上)、專賣局(中區古澤町)、稅務監督局(同上)、稅務署(同上)、鐵道局(中區笹島町)、遞信局(東區長坂町)、各郵便局、電話局等がある。

大規模

學校には醫科大學(中區鶴舞町)、第八高等學校(南區瑞穂町)、高等商業學校(同上)、高等工業學校(中區御器所町)等の官公立學校を始めとし、商業學校、工業學校、師範學校、中學校、高等女學校の諸學校が澤山ある。

會社、工場には大規模のものが頗る多い。東邦電力會社と大同電力會社は木曾川、長良川、揖斐川等に水力發電所を設け、名古屋市附近は

勿論大阪方面にまで電力を供給してゐる。日本陶器會社は専ら輸出向の陶器を製造してゐるが、産額の多いこと、品質の良いことは全國第一である。名古屋工廠では盛んに兵器を製造し、專賣局の工場では多量の紙巻と刻煙草を製造してゐる。又三菱内燃機會社や愛知時計電機會社等では飛行機等を製作してゐる。紡績業としては東洋紡績會社の工場が市内に二ヶ所もあり、その他の大小の會社と共に、多數の工女によつて多量の綿絲が作られてゐる。

三井物産會社支店と三菱商事會社支店等幾多の商事會社は外國貿易を營み、主に石炭、豆粕、大豆等を輸入し、内地産工業品を輸出する。

銀行には愛知銀行、名古屋銀行、明治銀行の本支店を始め日本銀行、三井銀行、三菱銀行、住友銀行、第一銀行等の支店がある。

新愛知新聞社と名古屋新聞社は、全國に知られた新聞社で、近縣各地にその支局が設けられてある。又市内には大阪朝日新聞社、大阪毎日

新聞社、報知新聞社、日本織物新聞社等の支局がある。

又日本電報通信社、帝國通信社、新聞聯合社、商業通信社等の支局があつて、各地との新聞通信に、盛んに市外通話を利用してゐる。

米穀取引所(中區米濱町)、株式取引所(中區南伊勢町)、綿糸布取引所(中區横三藏町)等も、取引上電話を利用することが頗る多い。

四 交 通

名古屋市は東部の極く小部分の外は概ね平坦で、坂道が少なく、市内交通の便が頗るよい。

鐵道は東海道線によつて東は東京方面より西は京都、大阪、神戸を経て下關まで通じてゐる。又名古屋を起點として、關西線は大阪と鳥羽とへ通じ、中央線は岐阜縣、長野縣方面を経て東京に通じてゐる。停車場は市内に四ヶ所あつて、名古屋驛は東海道線と關西線と中央線とを連絡

都邑 とくわい

し、熱田驛は東海道線に、千種驛と大曾根驛とは中央線に沿うてゐる。又附近の各都邑へは、電車によつて連絡せられてゐる。名古屋鐵道は柳橋を起點として清洲、津島に至る線路と、岩倉を経て小牧、犬山、一宮等に至るものがある。愛知電氣鐵道は熱田神宮前より鳴海、有松、岡崎を経て豊川に至るもの、大野を経て常滑に至るものがある。瀬戸電氣鐵道は堀河を起點とし大曾根を経て、陶器の産地として有名な瀬戸へ通じてゐる。下一色電氣鐵道は新尾頭より荒子を経て、下一色へ通じてゐる。

又市内には堀河と新堀河があつて船舶を通じ、貨物の輸送を容易ならしめてゐる。

名古屋港は近年築港せられたもので、完全な防波堤と棧橋があり、大きな船舶を碇泊せしめることが出来る。旅客の定期航路は四日市、鳥羽へ寄港して大阪へ至るものだけであるが、荷物の航路はよく開けて、北

海道、九州、臺灣、印度、米國等へも通じてゐる。

五 通 信

遞信事務とは郵便、電信、電話等の通信事務の外電氣、海事の事務の保險等の事務の總稱である。

名古屋遞信局は愛知、岐阜、三重、長野、福井、石川、富山の七縣下の遞信事務を監督してゐる。又市内には一等郵便局として、名古屋郵便局があり、二等郵便局として赤塚、笹島、熱田の三局があつて、いづれも郵便、電信の受付配達、爲替貯金、簡易保險等の取扱をしてゐる。その他配達の取扱をせぬ無集配三等郵便局は市内到る處にある。是等の郵便局の中には、電話の取扱をする通話局のあるところも少なくない。

名古屋中央電話局は西區桶屋町にある。電話の加入者数は二萬を超えてゐて、一局には收容し切れないので、東區神樂町に東分局を、中區東古渡町に南分局を、西區菊井町に西分局を置いて、各その方面の加入者を收容し、市内通話の交換を取扱つてゐる。

收容 ちゆうじゆう なまめる

市外電話線は東京、大阪、京都、神戸、横濱等に至るものと、岐阜、一宮、四日市、豊橋を始め附近の各都邑に至るものとを合し、その數二百餘回線に及んでゐて、全部本局に收容せられてゐる。市外通話區域は近縣各地は勿論、東は仙臺、北は新潟、西は福岡附近にまで及んでゐる。

第二章 愛知縣

一 地 況

愛知縣は本州の中で最も幅の廣い中部地方の西南部にあつて、東は静岡縣に、北は岐阜縣と長野縣に、西は三重縣に接し、南は伊勢灣と三河灣に臨んでゐる。

本縣は尾張國と三河國とを管轄し、次の通り四市、十八郡に分かれてゐる。

尾張國を尾州
三河國を三州
ともいふ。

尾張國	名古屋市	一宮市	西春日井郡
東春日井郡	中島郡	丹羽郡	
葉栗郡	海部郡	愛知郡	
知多郡	岡崎市	碧海郡	
豊橋市	額田郡	寶飯郡	
幡豆郡	南設樂郡	北設樂郡	
八名郡	西加茂郡	渥美郡	
東加茂郡			

愛知縣の地勢は一般に北から南に向つて段々低くなつてゐる。有名な濃尾平野は主として枇杷島川、木曾川、揖斐川等から流れて來た土砂が積つて出來たもので、この部分は氣候が溫和で、土地が肥えてゐるから、各種の産業が發達し、都邑が多い。

海岸は平野に連つてゐる砂濱や泥濱が多い。砂濱は海水浴に適し、新

舞子、大野、野間、蒲郡等は有名な海水浴場である。然し本縣の海岸は概ね遠淺であるから、大きな船舶を碇泊せしめることが出来ないので、天然の良港は少ない。

二 産 業

本縣は平野が多くて土地が肥えてゐるから、農業に適し、農産物に富んでゐる。殊に濃尾平野は米、麥、野菜の産地として名高い。又農家の副業として、養蠶、養鶏が盛んである。

本縣の山からは金屬類は産出しないが、亞炭、陶土、石灰石を産する。

本縣は暖流の流れてゐる大平洋に面してゐるため、魚介に富み、又所々に養魚池を設けて、盛んに養殖してゐる。その中鰻の養殖は全國第一で、渥美半島附近が最も盛んである。

魚介 魚や貝類
養殖 魚や貝類
ふやしなひ

工業も頗る發達してゐる。尾張國では織物業(名古屋、一宮)、紡績業(名古屋、半田)、窯業(瀬戸、名古屋)、醸造業(知多半島)などが主要なものであつて、三河國では製絲業(豊橋、岡崎)が盛んである。

三 交 通

鐵道は東海道線が本縣に入りて恰も樹の枝のやうに多數の連絡線を有してゐる。その重なるものは官線として關西線、中央線、又私設線として尾西鐵道、豊川鐵道、三河鐵道、西尾鐵道がある。

本縣は陸上の交通は甚だ便利であるが、水上の交通は餘り發達してゐない。河川は舟運に適するもの少なく、又海上で旅客の便を助けてゐる航路は三河灣内を通つてゐるものと、名古屋港から大阪へ至るものがあるだけである。しかし荷物の航路は餘程發達してゐて、名古屋、武豊、蒲郡等より各方面へ開けてゐる。

稠密 ちゆうみつ
こみあふ

愛知縣は人口稠密で、都邑が少なくないので、その間の連絡と、東西大都市との連絡を取るため、通信事業はよく行渡つてゐる。殊に名古屋、半田、一宮、豊橋、岡崎、西尾等は、多数の市外電話線を收容して、重要な中継局となつてゐる。

四 都 邑

一宮市 (尾張國) 名古屋より西北、約五里のところにある。この地名は市内に尾張の一宮眞清田神社があるから起つたのである。尾張國第二の商工業地で、織物業が盛んに行はれ、又繭、生絲、切干、鶏卵等の集散が多い。名古屋市とは汽車、電車の便があり取引が盛んで、従て兩市間には市外通話が多い。又一宮局は祖父江、奥町、起への通話の中継する。

新川町 (尾張國西春日井郡) 青物市場を以て有名な西枇杷島町を隔て、

名古屋市と町續きになつてゐる。名古屋より一宮、岐阜に至る街道筋に當つてゐるため、商家が立並んでゐる。西枇杷島の加入者は多くは新川局に屬し、一部は名古屋の西分局に屬してゐる。

清洲町 (尾張國西春日井郡) 新川町の西北に當り、昔織田信長の居城があつたところである。城趾は今は公園になつてゐる。この地は鐵道の便利がないため、一時商工業が振はなかつたが、近年電車によつて名古屋と連絡せられて、交通の便が開けた。この附近は野菜の栽培が盛んで、ここに縣立農事試験場があつて、農作の指導をしてゐる。

稻澤町 (尾張國中島郡) 名古屋市と一宮市との中間にあり、東海道線の驛がある。近年この地に大規模の鐵道操車ヤードが設けられた。この邊一帶尾張名産切干を産出する。雛追祭で有名な國府宮神社はこの附近にある。

起町 (尾張國中島郡) 一宮市の西北に當り、織物と染物の盛んなところ

指導 しだう
ちびく

である。

岩倉町(尾張國丹羽郡) 名古屋市の北、約二里のところにあり、名古屋より来る電車が小牧、犬山、一宮の三方面に分かれるところである。この邊の農家では養蠶、養鶏の副業が盛んである。

犬山町(尾張國丹羽郡) 尾張國の北の端に當つて、木曾川の沿岸にある。この邊を日本ラインと稱し、風景が勝れて居り、且つ名古屋とは電車の便が好いので、遊覽地となつてゐる。犬山城は木曾の清流に臨んで、眺望殊に絶佳である。城の直下に名古屋市の水道取入口がある。この地の名産は犬山焼と忍冬酒である。犬山局は岐阜縣鷺沼、各務等への通話を中繼する。

勝川町(尾張國東春日井郡) 名古屋市大曾根町より約半里、中央線の驛がある。昔徳川家康小牧山に對陣中、軍勢をこの地に進め、地名が吉兆である。野にある竹を切つて旗竿とし、長久手にて大勝したといふ

由緒のあるところである。

瀬戸町(尾張國東春日井郡) 名古屋市より東北五里のところにあり、その間に電車の便がある。陶器の産地として古來有名で、陶器を俗に瀬戸物と呼ぶによつても、その産額の多いことが知れる。瀬戸局は品野への通話を中繼する。

小牧町(尾張國東春日井郡) 名古屋市の北、三里半のところにある商業地である。近傍に小牧山がある。徳川家康が豊臣秀吉と對陣した古戦場である。この山は全山殆ど竹藪で、五位鷲が無數に繁殖してゐる。小牧局は樂田への通話を中繼する。

下一色町(尾張國愛知郡) 名古屋市の西方約二里、枇杷島川の下流に臨んでゐる。漁業が盛んで大きな魚市場がある。毎日電車で魚介を名古屋市に搬出し、市中を行商するものが多い。この地は俗に一色とも呼ばれてゐる。

繁殖 はんじやく はびこる

搬出 はんしゆつ はこびだす

蟹江町（尾張國海部郡） 關西線の驛がある。下一色と共に漁業が盛んで、魚類を名古屋に供給してゐる。蟹江局は七寶、十四山への通話を中継する。

彌富町（尾張國海部郡） 木曾川の沿岸にあり、關西線と尾西鐵道との分岐點である。尾西鐵道はこゝより津島を経て一宮に通じてゐる。彌富の附近に森津といふところがある。藤の大株があるので名を知られてゐる。

津島町（尾張國海部郡） 尾西鐵道の驛があり、又電車にて名古屋市に連絡してゐて、交通が頗る便利である。毛織物の製造が盛んで、又附近からは良質の蓮根を産出する。こゝには有名な津島神社があつて、素盞男尊が祀つてある。附近に佐屋と稱するところがある。佐屋街道は名古屋市の南部よりこゝを経て彌富に出で、木曾川の渡船によつて伊勢の桑名へ通じてゐる。昔伊勢參宮者で熱田より海上を渡ることを好まぬものは、この街道によつたものである。津島局は神守への通話を中継する。

水鶏なくご聞けばや佐屋の早ごまり 芭蕉

鳴海町（尾張國愛知郡） 昔の東海道五十三次の一つで、鳴海絞の産地として有名である。元は海岸の宿場であつたが、今は海から一里餘も離れてゐる。

鳴海潟沙のみちひのたび毎に道ふみかふる浦の濱人 宗良親王

有松町（尾張國知多郡） 鳴海町と町續きで、亦絞を産し有松絞といふ。

鳴海絞と同じものである。鳴海も有松も名古屋から電車の便がある。有松の附近には桶狭間の古戦場がある。

大高町（尾張國知多郡） 東海道線の停車場があつて、有松、鳴海と極く接近してゐる。桶狭間の役に徳川家康が十九歳の初陣に大勝した大高城趾がある。

大府町（尾張國知多郡） 東海道線の停車場があり、武豊線の分岐點である。市外通話は刈谷で中継する。

龜崎町(尾張國知多郡) 郡中半田に次ぐ都邑で武豊線の停車場がある。

半田と共に酒、醬油の醸造が盛んである。龜崎饅頭の名は廣く知られてゐる。

半田町(尾張國知多郡) 郡の中心地で武豊線の停車場がある。又港には汽船の出入が頻繁で、海陸の運輸に便利である。醸造業と紡績業が盛んで、加富登麥酒、東洋紡績の工場がある。阿久比、西浦、武豊、小鈴谷野間、内海、河和、大井、師崎、豊濱への通話は、皆半田局で中繼する。

武豊町(尾張國知多郡) 武豊線の終點である。武豊港は衣ヶ浦に臨み、開港場の一つで、水深く波靜かに、名古屋港に次ぐ良港である。

師崎町(尾張國知多郡) 知多半島の南端にある。交通は不便であるが氣候が溫暖なため、轉地療養に入り込むものが多い。

野間町(尾張國知多郡) 源義朝がその臣鎌田政清の舅長田忠致のために

討たれたところである。義朝の墓には木刀を供へるものが多い。

大野町(尾張國知多郡) 知多半島の西海岸にある都邑で、愛知電氣鐵道によつて名古屋と連絡してゐる。この地は既に七十五年前より海水浴の行はれたところで、今も名古屋邊よりの浴客が多い。

常滑町(尾張國知多郡) 大野と同じく西海岸にあり、愛知電氣鐵道の終點である。常滑焼の産地として名高い。

刈谷町(三河國碧海郡) 東海道線の停車場がある。三河鐵道はこゝを起點として、北は知立、舉母へ、南は大濱へ通じてゐる。

知立町(三河國碧海郡) 昔は池鯉鮒といひ、可なり繁華な土地であつたが鐵道の便がないため一時衰退してゐた。しかし近年三河鐵道で刈谷と連絡せられ、又愛知電氣鐵道によつて、名古屋、岡崎と連絡せられて、交通の便が開けた。附近に八橋の舊跡がある。昔は杜若の名所で、業平朝臣の「から衣きつ、なれにしつ、ましあればはるくきぬるたびをしぞ思

衰退
おとろへ

ふ」といふ歌で、今も人に知られてゐる。

安城町(三河國碧海郡) 東海道線の停車場がある。碧海郡の中心地で、縣立農事試験場と農林學校がある。

大濱町(三河國碧海郡) 衣ヶ浦に臨んで、半田と對してゐる。三河鐵道によつて、刈谷へ通じてから、海水浴場として知られるに至つた。

西尾町(三河國幡豆郡) 豊橋、岡崎に次ぐ名邑である。岡崎より鐵道の便がある。附近に明治、平坂、寺津、一色、上横須賀、吉田、幡豆等の都邑がある。西尾はその中心となつて、市外通話の中繼局である。

岡崎市(三河國) 昔は矢作と稱したところで、徳川家康の出生地として知られてゐる。東海道線の停車場は市より約一里離れたところにあつて交通が稍不便であつたが、近年愛知電氣鐵道が市内に引込まれてから、名古屋との交通は頗る便利になつた。この地は製絲業が盛んで、又有名な八丁味噌を産する。岡崎局は福岡、幸田、六ツ美等への通話を中繼する。

る。

蒲郡町(三河國寶飯郡) 東海道線の停車場がある。この地は渥美灣に面し海上に數箇の島があつて、眺望が勝れてゐる。海岸には海水浴場の設けがあつて、避暑客が多い。

御油町(三河國寶飯郡) 豊橋市の西方約三里のところであり、舊東海道五十三次の一つである。昔持統天皇がこの附近の宮路山に駐輦したまへるごき、こより油を奉つたので、御油と稱するといふことである。この町には御油局と御油驛前局とあつて、通話はいづれも豊橋局で中繼する。

短夜を御油より出て、赤坂や 芭 蕉

豊橋市(三河國) 三河國の東南部にあり、國中第一の都會で、製絲業が盛んである。豊橋驛は東海道線と豊川鐵道との分岐點で、豊川鐵道は豊川、新城を経て、古戰場として有名な長篠へ通じてゐる。豊橋局は豊川

駐輦
おとまり

田原、福江その他附近十餘ヶ所への通話を中繼する。

豊川町(三河國寶飯郡) 豊橋市より北約二里のところにある。この町に祀られてある吒枳尼天は、俗に豊川稻荷と稱し、遠近よりの參詣者が頗る多い。この地には、東京大阪間長距離電話ケーブルの中繼所が設けられてゐる。

新城町(三河國南設樂郡) 豊橋市の北六里のところにあり。この附近に於ける重要な商業地で、名古屋との取引も多い。新城局は田口、海老、大野、本郷、八名への通話を中繼する。

足助町(三河國東加茂郡) 岡崎市より北、約七里のところにあり。飯田街道に當る山間の都邑である。

舉母町(三河國西加茂郡) 郡中商業の中心地である。元は交通が不便であつたが、近年三河鐵道によつて刈谷と連絡せられ、交通の便が開けた。こゝには平宗盛の侍女熊野が住んだ草庵の跡がある。舉母局は猿投、石

野への通話を中繼する。

田原町(三河國渥美郡) 豊橋市より南方約五里、志士渡邊華山を出したところである。附近に近年發見せられた大きな石灰洞があつて、遠地より見に来るものが多い。近村一帶養豚が盛んで、渥美豚の名はよく人に知られてゐる。

福江町(三河國渥美郡) 渥美半島の尖端にある都邑で、三河灣の航路の中心地となつてゐる。附近に大阪の工廠で製造した大砲の試験場がある。

第三章 岐 阜 縣

一 地 況

岐阜縣は美濃國と飛驒國とを管轄し、愛知縣の北に連つてゐる。本縣の西南部は濃尾平野であるが、東北部は殆ど山地で、殊に飛驒國一帶は

尖端

山嶽起伏して、交通が頗る不便である。

鐵道は東海道線が愛知縣より來りて、岐阜、大垣、垂井、關ヶ原の諸驛を経て、滋賀縣に向つてゐる。又中央線は愛知縣より來りて、多治見、土岐津、瑞浪、釜戸、大井、中津、坂下を過ぎて、長野縣に入つてゐる。別に支線としては岐阜を起點とする高山線が、各務ヶ原、鷺沼、太田等を経て、大部分開通してゐる。又養老鐵道は大垣より養老を経て、三重縣桑名へ通じてゐる。

本縣は海に面したところが全くないので、水運の便は極めて少ない。唯木曾川、長良川、揖斐川によつて、幾分舟運の便が開けてゐるだけである。是等の川の上流はいづれも急流で、水力電氣の發電に利用せられてゐる。

岐阜縣の産業は農を主とし、養蠶、製絲、製紙が之に次いでゐる。

二 都 邑

美濃國の中で、
土岐、惠那、可
兒、加茂の四
郡を東濃とい
ひ、その他を
西濃といふ。

岐阜市(美濃國) 縣下第一の都會で、岐阜縣廳の所在地である。長良川に臨み、附近に金華山が峙ち、風景の勝れたところである。長良川の鵜飼は古來全國にその名を知られてゐる。この地は縮緬、美濃紙、傘、提燈を生産し、名古屋と市外通話の關係の極めて深いところである。又西濃と飛驒國各地への通話は、皆岐阜局で中繼する。

面白うてやがてかなしき鵜舟かな 芭蕉

笠松町(美濃國羽島郡) 岐阜市の西南一里餘、木曾川の沿岸にある。愛知縣木曾川町と相對し、その間に五町に餘る木曾川橋が架かつてゐる。笠松はその附近にある竹ヶ鼻町と共に、美濃綿の集散地である。

大垣市(美濃國) 東海道線の重要驛で、養老線、揖斐線、赤坂線の分岐點である。戸田氏の舊城下で、古來商業の盛んなところである。この附近よりは柿が多量に産出する。大垣の柿羊羹は廣く人に知られてゐる。

大垣局は高田、赤坂、笠郷、池田、神戸、墨俣、垂井、關ヶ原への通話を中繼する。

高田町(美濃國養老郡) 養老山の麓にあり、養老鐵道の停車場がある。

酒造業が盛んで、養老酒が醸造される。こゝより約一里のところに、有名な養老瀧がある。養老驛前には養老といふ通話局がある。

關町(美濃國武儀郡) 岐阜市の東北に當り、電車の便がある。この地は古來双物の産地として知られてゐる。市外通話は岐阜局で中繼する。

美濃町(美濃國武儀郡) 岐阜市より關町を経て、電車の便がある。美濃紙の集散地で、以前上有知と稱したところである。

八幡町(美濃國郡上郡) 美濃國北部の都邑で、山間にあり交通不便であるが、商業が開け、又製絲業が盛んである。この地は俗に郡上八幡と呼ばれてゐる。

多治見町(美濃國土岐郡) 名古屋市の東北約七里、中央線の停車場があ

る。陶器の製造が盛んで、重に支那、米國への輸出品を産出する。近傍にある虎谿山は、座禪道場として有名である。多治見局は岩村、御嵩、駄知、妻木等への通話を中繼する。

瑞浪村(美濃國土岐郡) 多治見町の北三里、停車場がある。土岐村と町續きで、以前は局名を土岐と呼んだ。明知、陶等への通話の中繼局である。

大井町(美濃國惠那郡) 東濃中津に次ぐ都會で商業が盛んである。附近のダム式水力發電所は、その規模の壯大なる點に於て、全国的に有名である。大井局は釜戸、坂本、蛭川等への通話を中繼する。

中津町(美濃國惠那郡) 東濃第一の繁華なところで、停車場名は中津川驛といふ。製絲業が盛んで、又中央半紙の大工場がある。中津局は付知、下呂等への通話を中繼する。

高山町(飛驒國大野郡) 飛驒國第一の都會で、商業殷盛、一位細工、春慶

塗を産出する。高山への通話は岐阜局にて中繼し、又高山局は小坂、船津、古川への第二中繼局である。

第四章 三重縣

一 地 況

三重縣は愛知縣の西に連り、伊賀、伊勢、志摩の三國と紀伊國の一部を管轄してゐる。

本縣は西方に鈴鹿山脈が連り、東南は皆海に面してゐるので、氣候溫和、地味肥えて、米の産額が多く、又志摩の眞珠養殖事業は、世界にその名を知られてゐる。

鐵道は關西線が愛知縣より入りて、桑名、四日市、龜山等を経て、奈良縣に向ひ、又龜山より分岐した參宮線は、津、松阪、山田を経て、鳥羽に通じてゐる。

紀伊國を紀州ともいふ。

二 都 邑

桑名町(伊勢國) 揖斐川の河口にあり、米穀材木の取引が盛んである。

昔は東海道五十三次の一つで、旅人は多くは渡船にて海上七里を熱田へ渡つたものである。名物時雨蛤、桑名盆等を産する。桑名局は長島、七取、阿下喜、大泉原、大長等への通話を中繼する。

富田町(伊勢國) 桑名と四日市との中間にあり、古來燒蛤で有名なところである。今は海水浴場として知られ、名古屋から入り込む浴客が多い。

四日市市(伊勢國) 貿易港で、港内廣く水深く、大船の碇泊に適してゐる。陸には關西線があつて、交通の便極めてよく、三重縣下で最も商業の盛んなところである。萬古燒はこの地の名産である。四日市局は楠、神戸、白子、河原田、菰野等への通話を中繼する。

龜山町(伊勢國) 關西線と參宮線との鐵道分岐點である。又この地には、東京大阪間長距離電話ケーブルの中繼所が設けられてゐて、交通通信上重要な土地である。龜山への通話は津局で中繼する。

津市(伊勢國) 安濃津ともいつて、古來「伊勢は津でもつ、津は伊勢でもつ」と謠はれ、三重縣第一の都會である。附近の贄崎浦、阿漕浦は風景よく、海水浴場になつてゐる。津局は上野(伊勢)、龜山、關(伊勢)、一身田、久居、尾鷲等への通話を中繼する。

松阪町(伊勢國) 津市の南にあたり、松阪木綿の産地で、商業が盛んである。松阪商人の名は古來廣く知られてゐる。又國學者本居宣長はこの地の人で、その鈴の家は今も公園内に保存せられてゐる。松阪局は相可松ヶ崎、粥見、柿野への通話を中繼する。

敷島のやまご心を人間は、朝日に匂ふ山櫻花 宣 長

宇治山田市(伊勢國) 普通に山田と呼んでゐる。伊勢大廟のあるところ

で、四時參詣者が絶えぬ。外宮は山田停車場より五町程のところにあり、豊受大神を祀り、内宮は一里餘を隔てた五十鈴川の岸にあつて、皇祖天照大神を奉祀してゐる。山田局は二見、鳥羽、田丸等への通話を中繼する。

何事のおはしますかは知らねども忝けなさに涙こぼるゝ 西行

鳥羽町(志摩國) 二見の浦の東南にあり、參宮鐵道の終點である。海岸の景色絶佳にて、蒼々とした海中に大小の島の浮べる様は、松島の趣がある。海上一里の神島と鳥羽との間には、無線電話が設けられてゐる。日本で公衆用とした無線電話の最初のものである。この近海には鰻が多く、海女が之を採る有様も、名物の一つとなつてゐる。

尾鷲を俗に「オワセ」と呼んでゐる。

尾鷲町(紀伊國) 熊野灘の一港で、材木、薪を盛んに各方面へ積出してゐる。又此の邊一帶に漁業が盛んである。

上野町(伊賀國) 國中最も繁盛なところで、伊賀越仇討と俳人芭蕉の出

生地として、名を知られてゐる。

第五章 長野縣

一 地 況

信濃國を信州ともいふ。

長野縣は岐阜縣の東に連り、信濃國一帶である。本縣は日本アルプスと呼ばれる大山脈を控え、土地高く、山深く、養蠶、製絲が盛んである。

鐵道は中央線が岐阜縣より入りて、塩尻を経て山梨縣甲府に通じてゐる。又信越線は東京を發して本縣に入り、篠井、長野を経て新潟縣に走つてゐる。篠井、塩尻間は別に鐵道で連絡せられ、その間に松本がある。本縣は四方山を以て包まれてゐるので、水運の便は全くない。

二 都 邑

長野市 縣廳の所在地で、善光寺のあるところとして知られてゐる。

附近に川中島の古戰場があつて、市内の高所より望むここが出来る。

信濃では月と佛と佛と佛とが蕎麥 一 茶

松本市 縣下第一の商業地である。舊城下で今も五層の天主閣が市に聳えてゐる。俗に松本温泉と呼んでゐる淺間温泉は、約三十町離れたところにある。山の中腹にあつて眺望が好いので浴客が多い。長野市はじめ北信各地への通話は、皆松本局で中繼する。

福島町 木曾山中の都邑で、御嶽登山道に當つてゐる。名物お六櫛を賣る店が多い。福島と上松との中間に、有名な木曾の棧の跡がある。

かけはしや命をからむ薦かつら 芭 蕉

上諏訪町 有名な諏訪湖畔にある。諏訪湖の結氷は厚さ二尺以上にも達し、人馬の往來に差支がないので、スケートの爲めに他地方から入り込むものが多い。この邊一帶製絲が盛んである。市外通話は岡谷局で中繼する。

木曾山脈の北を北信、南を南信といつてゐる。
福島は俗に木曾福島と呼ばれてゐる。

岡谷村 諏訪湖に面した都邑で、人口は多くはないが、製絲の中心地で、その盛んなことは日本第一といはれてゐる。生絲の取引のため名古屋との通話が多い。

飯田町 南信第一の商業地で、名古屋方面との取引が多い。製絲が盛んで、特産品に飯田元結がある。飯田局は南信各地への通話の中継する。

第六章 福井縣

一 地 況

俗に北陸道の國々を北國と呼ぶ。

福井縣は越前、若狹の二國を管轄し、北陸道の西南部を占め、東は岐阜縣に連り、西は一帯日本海に面してゐる。

斷崖がけ

鐵道は北陸線が滋賀縣より入りて、敦賀、武生、福井等を経て、石川縣に向つてゐる。海岸は斷崖が多く、航行の便があるのは、小濱(若狹)、

敦賀(越前)、福井(同上)の二ヶ所だけである。

産物は若狹の雲丹、若狹鰈、その他の水産物、越前の羽二重、奉書紬等である。

二 都 邑

敦賀町(越前國) 日本海にある最も重要な貿易港で、浦蘆斯徳との間に定期航路があつて、三十九時間で浦港に達することが出来る。新田義貞が後醍醐天皇の二皇子を奉じて立籠つた金ヶ崎は、町の北方にある。

武生町(越前國) 福井市と敦賀町との中間にある。町民多く鍛冶を業とし、鎌を盛んに製造する。又羽二重、蚊帳の産地として有名である。

福井市(越前國) 北陸道中金澤に次ぐ大都市で、羽二重の主産地である。新田義貞の戦死した藤島はこの附近で、市内に義貞を祀る藤島神社がある。福井局は武生、三國、大聖寺等への通話の中継する。

第七章 石川縣

一 地 況

石川縣には加賀、能登の二國が屬し、福井縣の北に連つてゐる。能登半島が遠く日本海に突出し、西北は全部海に面してゐる。しかし海岸の出入が少なくて良港はない。

鐵道は北陸線が福井縣より入りて、大聖寺、小松、金澤等を経て、富山縣に向つてゐる。

物産は加賀の羽二重、九谷焼、能登の輪島塗等である。

二 都 邑

金澤市(加賀國) 昔は前田家百萬石の城下で、今も北陸第一の都會である。縣廳、第九師團等がある。市内の兼六公園は日本三名園の一つとし

三名園—水戸の偕樂園、岡山の後樂園、金澤の兼六公園

て、世に知られてゐる。九谷焼はこの地の名産である。金澤局は小松、伏木、富山、高岡等への通話を中繼する。

小松町(加賀國) 金澤市の南にあたる商業地で、陶器、羽二重を産出する。西方の海岸に辨慶の勸進帳で有名な、安宅の關の跡がある。

大聖寺町(加賀國) 小松の南にあたり、昔は前田家支藩の城下であつたが、今も相當繁華なところである。盛んに加賀絹を産する。

第八章 富山縣

一 地 況

越中國一帯を富山縣とし、西は石川縣に接し、北は一面日本海に面してゐる。

鐵道は北陸線が石川縣より來り、石動、高岡、富山等を経、親不知の隧道に入りて、新潟縣へ通じてゐる。海路は伏木を縣下唯一の港とし

て、近縣への航路が開けてゐるだけである。

富山縣の物産として廣く知られてゐるものは、富山市の賣藥、高岡の銅鐵器である。

二 都 邑

富山市 富山縣廳のあるところで、市街は繁華である。この市の賣藥はその名全國に高く、製藥業者が四百餘あつて、反魂丹、熊膽圓等を各地に行商する。

雪解や富山を出づる藥賣

高岡市 富山に次ぐ繁榮地である。家具類の製作工場が多く、又鍋、釜、火鉢等の銅鐵器と漆器類を産する。

伏木町 富山灣にある貿易港で、敦賀、新潟と共に、日本海にある良港の一つである。

第九章 新潟縣

一 地 況

新潟縣は雪で名高い越後國と、遙か日本海上にある佐渡國とより成つてゐる。越後國は面積極めて廣く、殊に信濃川の沿岸には大平野があつて、地味肥え、有名な越後米を産出する。名古屋地方との市外通話は、殆ど皆米の賣買についての通話である。

鐵道は長野縣より入り來る信越線と、富山縣より入り來る北陸線とが直江津にて出合ひ、それより長岡を経て、新潟に通じてゐる。

港には新潟と直江津とがある。

二 都 邑

新潟市(越後國) 縣下第一の都會で開港場であるが、港内淺く、又冬には浪が高く、今のところ良港とはいへない。本港は越後米と石油を重

に輸出する。新潟は名古屋から北陸地方へ通話の出来る最も遠いところで、通話は東京局で中継する。

長岡市(越後國) 越後平野の中間にあり、縣下第二の都會である。附近にある百餘の石油井より湧出する原油が、こゝで精製せられるので、商業の盛んなこゝは新潟を凌ぐ程である。名古屋との通話は東京で中継する。

高田市(越後國) 信越線に沿つた一驛である。この附近は有名な雪の多いところで、昔大雪のときに市街が雪に埋つてしまつたので、「この下に高田あり。」と高札を立てたことは有名な話である。近來この邊はスキーの本場となつてゐる。名古屋との通話は松本、長野の二局で中継する。

直江津町(越後國) 信越線と北陸線とが會合するところである。信濃へ米、鹽、海産物を供給する重要地で、古來商業が盛んである。名古屋と

の通話は松本、長野の二局で中継する。

第十章 靜岡縣

一 地 況

靜岡縣は遠江、駿河、伊豆の三國より成り、愛知縣の東に連つてゐる。本縣の南方一帯は大平洋に面し、沿岸には田子の浦、三保の松原等の名勝が多い。又伊豆半島には、熱海、伊東、修善寺等の温泉場があり中にも熱海の間歇泉は最も著名である。

鐵道は東海道線が東方神奈川縣より入りて、三島、沼津、清水、靜岡、焼津、濱松等を経て、愛知縣に向つてゐる。

遠江、駿河の二國は海岸が砂濱で、清水港の外には良港がないが、伊豆半島には良港が多い。

本縣は北に富士山脈を負ひ、南には大平洋の暖流があるので、氣候溫

遠江國を遠州
駿河國を駿州
ともいふ。

暖、茶の栽培に適し、盛んに海外へ輸出せられる。又蜜柑、梨等の栽培も盛んである。

二 都 邑

舞阪町(遠江國) 愛知縣豊橋市より東約二里、濱名湖の口にある。舞阪驛の西十町のところに辨天島がある。風景のよいの海水浴で有名である。

濱松市(遠江國) 東海道線の一要驛で、商工業の盛んなところである。殊に木綿縞の産額の多いことは、愛知縣一宮附近と並び稱せられてゐる。又山葉オルガンの大工場は、全國に名を知られてゐる。濱松局は遠江國各地への通話を中繼する。

静岡市(駿河國) 徳川家康の隠居したところで、昔は駿府と呼んでゐた。東京、名古屋間の中程にあり、市街繁盛で、静岡縣廳がある。産物

壯麗
りつぱ

は茶、竹細工、山葵漬等である。附近に東照宮を祀る久能山がある。社殿壯麗風景絶佳の勝地である。静岡局は駿河、伊豆各地への通話を中繼する。

焼津町(駿河國) 静岡市の西約三里、漁業地である。昔日本武尊東夷征伐の折、野を焼いて賊を平げ給ひしたため、焼津の名が起つたのである。

清水市(駿河國) 静岡市の東三里のところにあり。開港場の一つで、蜜柑、茶の輸出が盛んである。南にあたつて有名な三保の松原が、海中へ突出してゐる。

沼津市(駿河國) 海陸交通の便利よく、氣候溫和、景色が勝れてゐるから、避暑、避寒、療養地として知られてゐる。御用邸をはじめ名士の別荘が多い。

三島町(伊豆國) 昔は東海道五十三次の一つで、箱根山を上下する旅の宿場として、繁華な町であつた。今も伊豆國第一の都會である。

第十一章 山梨縣

一 地 況

甲斐國を甲州かづしゅうともいふ。
 山梨縣は甲斐國一帯で、富士山の北裏に當る高原である。
 鐵道は中央線が多數の隧道によつて東京府より入り來り、長野縣へ通じてゐる。日本第一の笹子の隧道は本縣にある。
 本縣は山國で土地が高燥なため、葡萄の栽培に適し、甲州葡萄の名は全國に知られてゐる。
 高燥 かうそう かはく

二 都 邑

甲府市 縣下第一の都會で製絲が盛んである。又水晶細工、葡萄酒、甲斐絹等の産物がある。市外通話は東京中繼である。

第十二章 神奈川縣

一 地 況

相模國を相州さうしゅう武藏國を武州ぶしゅうともいふ。
 神奈川縣は静岡縣の東に當り、相模國全部と武藏國の一部とよりなつてゐる。
 本縣は陸には東海道線と横須賀支線があり、海には港灣が多く、海陸の交通頗る發達してゐる。

縣下には名勝の地が多く、鎌倉、江島、大磯等は最も人に知られてゐる。

心なき身にもあはれは知られけり 鳴立つ澤の秋の夕暮 西 行

二 都 邑

横濱市(武藏國) 東京市より西約八里のところにあり。神戸港と共に重要な貿易港として、世界にその名を知られてゐる。殊に生絲、絹布の輸

出は從來殆ど本港に限られてゐたので、福井、金澤等羽二重産地との通話が多く、皆名古屋局で中繼してゐる。横濱局は鎌倉、横須賀、川崎、蒲田、鶴見への通話を中繼する。

横須賀市(相模國) 有名な軍港で、港の入口僅に四町餘で、内部が擴がつてゐるので、如何なる暴風にも安全に船舶を碇泊せしめることが出来る。海軍鎮守府、造船所等がある。

第十三章 東京府

一 地 況

東京府は神奈川縣の東に當り、武藏國の一部分と伊豆七島と小笠原島とを管轄してゐる。

東京府は昔の武藏野の大部分を占め、土地平に人口稠密、東京市を中心として、文化が頗る進んでゐる。

二 都 邑

東京市(武藏國) 宮城のあるところで、眞に東洋第一の大都會である。

昔は江戸と稱し、八百八街といはれてゐたが、今は十五區に分け、千五百餘町にも及んでゐる。その中麴町區には宮城があり又官廳が多く、本郷區には學校が多く、京橋區、日本橋區は商業の中心地で、本所區、深川區には工場が多い。概して下町は市中でも最も賑しく、商業が盛んで、山の手には邸宅が多い。

東京市は我國交通の中心地で、鐵道は皆こゝを起點とし、又電信電話線もこゝに集つてゐる。關東は勿論奥羽地方への通話は、皆東京局で中繼する。

八王子市(武藏國) 東京市より西北十二里のところにあり。有名な機業地で、風通織、銘仙、斜子を産出する。

第十四章 千葉縣

一 地 況

東京府の東に當り、安房、上總、下總の三國を管轄し、房總半島をなしてゐる。西海岸は東京灣に臨み、東海岸は太平洋に向つて開けてゐる。この海岸は鱧、鯉、秋刀魚等の産額が多く、九十九里濱は全國屈指の漁場に數へられてゐる。

銚子、野田は醤油、酒の産地として名高い。

二 都 邑

千葉市(下總國) 東京灣に臨み、千葉縣廳がある。附近は練兵地に適してゐるので、陸軍の學校、兵營等が多い。

佐倉町(下總國) 商業が盛んで、有名な佐倉炭の集散地である。近郊に

安房國を房州ともいふ。

義人木内宗吾を祀る宗吾靈堂がある。

第十五章 埼玉縣

一 地 況

埼玉縣は東京府の北に連り、武藏國の北部を管轄してゐる。西部の山地を除けば、その大部分は關東平野の一部を占め、米、麥、甘藷の産額が多い。川越芋の名は廣く知られてゐる。

又臺地には桑畑が多く、熊谷を中心として、養蠶製絲が盛んである。

二 都 邑

大宮町 東京上野より來る鐵道が、東北線と信越線とに岐れるところで、この地に鐵道附屬の大工場があつて、車輛、機械類を製造してゐる。

第十六章 群馬縣

一 地 況

上野國を上州じやうしゅうともいふ。
 機織きしやく はたおり

上野國一帶を群馬縣とし、埼玉縣の北に當つてゐる。縣下には平野が多いが、北部と西部とは山地で、アプト式鐵道で有名な碓氷峠つづまのとうげがある。本縣は機織が盛んで、桐生きりやまの上州絹、伊勢崎の伊勢崎織等有名である。

二 都 邑

前橋市 東京市より北二十八里、縣廳のあるところである。生絲、繭の賣買が盛んで、又製絲工場が頗る多い。

高崎市 前橋市より西南二里のところであり、舊中山道ふるなかつざんどうの一要驛であつた。今も前橋市と並んで、商業の盛んなところである。

第十七章 栃木縣

一 地 況

下野國を野州やしゅうともいふ。

下野國一帶を栃木縣とし、群馬縣の東に連つてゐる。本縣の北部は男體山、那須野等の高山、原野が交り、南部には關東平野の一部がある。本縣は烟草栽培と織物業と養蠶業が盛んである。又足尾山よりは多量の銅を産出する。

結構を以て世に誇る日光は、男體山にある。

ものゝふの矢なみつくらふこての上に霞たばしる那須の篠原

源實朝

かさねごは八重撫子の名なるべし

芭蕉

二 都 邑

足利市 機業地として知られたところで、輸出向、内地向とも製造せ

らるゝ織物の種類の多いこと全國一で、中にも風通御召、繻珍帶地等がもてはやされてゐる。

第十八章 福島縣

一 地 況

栃木縣の北に連り、磐城國の一部分を管轄してゐる。海岸に沿ふ部分以外は、概ね山地である。

縣下に磐城無線電信局があつて、遠く米國との通信を交してゐる。

都をば霞ごにも出でしかご秋風ぞ吹く白河の關 能 因

二 都 邑

郡山(岩代國) 鐵道東北線に沿ふ商業地で、この地を中心として、附近一帯に蠶絲、機業が盛んである。

第十九章 宮城縣

一 地 況

宮城縣は陸前國一帯を管轄し、本州中青森縣、岩手縣と共に、東北部に位してゐる。

仙臺附近の宮城野の萩ご松島の名勝ごは、古來世に知られてゐる。

二 都 邑

仙臺市(陸前國) 東京以北第一の都會である。伊達氏の舊城下で昔から殷盛な土地である。城は伊達政宗の築いたもので、今は第二師團の司令部がある。産業には仙臺平、埋木細工等がある。この地は名古屋から通話の出来る東北端の土地であつて、通話は東京局で中繼する。

第二十章 滋賀縣

一 地 況

近江國を江州
ともいふ。

滋賀縣は岐阜縣の西南に連り。又東は山脈を隔て、三重縣と接してゐる。本縣は近江國一圓を管轄し、琵琶湖の周圍一帶の地で、京都市に近いため、名所、舊跡が少くない。

鐵道は東海道本線の外多數の支線があり、又琵琶湖の沿岸地は舟運の便がある。

産物は米を重要なものとし、信樂焼、伊吹艾、長濱の濱縮緬、八幡の蚊帳等である。

二 都 邑

彦根町 東海道線に沿ひ、琵琶湖の東岸にある。井伊家の舊城下で、本縣第二の都會である。彦根城は今も湖畔に聳え、その邊の眺望實に絶

佳である。市外通話は岐阜局で中繼する。

雁なくや舟に魚やく琵琶湖上

蕪 村

大津市 東海道線に沿ひ、琵琶湖の南岸にある。湖上の汽船はこゝより發して沿岸の各地へ通じ、又京都は電車の便があつて、水陸の交通實に便利である。市の西部には近江八景の一つなる三井寺がある。こゝより湖上を眺めた景色は殊に勝れてゐる。三井寺の下は京都への疏水の入口である。大津への通話は京都局で中繼する。

七景は霧にかくれて三井の鐘

第二十一章 京 都 府

一 地 況

京都府は山城、丹後の二國と丹波國の一部より成り、滋賀縣の西に連つてゐる。丹波と丹後は殆ど全部山地であるが、山城は平野が多く、

古來文化が開け、京都市はその中心となり、鐵道、電車が四通八達の状態にある。

本府の物産は山城の茶、竹、西陣織、清水焼、丹波の材木、牛等である。

二 都 邑

京都市(山城國) 東京、大阪に次ぐ大都會で、東海道線、關西支線、山陰線等の連絡するところである。この地は桓武天皇の御代から明治の始めまで、千餘年間の帝都であつたので、名所舊跡が頗る多い。その重なるものは三十三間堂、清水寺、智恩院、疏水のインクライン、東西本願寺、金閣寺、銀閣寺、北野神社、嵐山等で、四時遊覽の客が絶えない。西陣織、清水焼は京都の名産である。京都局は京都府と滋賀縣各地への通話を中繼する。

伏見町(山城國) 京都の南一里餘のところにあつて、汽車、電車にて京都、大阪へ連絡せられてゐる。この地には明治天皇と昭憲皇太后の御陵がある。この邊一帶に竹藪、茶畑が多く、良質の竹材と筍を産する。有名な宇治茶を産する宇治も、この近くにある。

第二十二章 奈良縣

一 地 況

大和國一帶を奈良縣とし、京都府の南にあたつてゐる。本縣は四方山脈にて包まれ、その中に平野がある。京都へ遷都以前は皇居は主としてこの平野の間に定められた。従て本縣には歴史上有名なところが多い。

二 都 邑

奈良市 東に三笠山があつて、遊覽に適したところである。この地は

遷都
す

昔七代の帝都であつたので、名勝、古跡が甚だ多く、中にも東大寺の大佛、春日神社、正倉院等は有名なものである。市外通話は大阪局で中継する。

慣れたり知らず驚く旅人の袂にすぎる春日野の鹿 読人不知

郡山町 奈良に次ぐ都會で、綿布の製造が盛んである。又金魚の養殖によつて、名を知られてゐる。

第二十三章 大阪府

一 地 況

大阪府は河内、和泉の二國と攝津國の一部とより成り、京都府の南、奈良縣の西に連つてゐる。本縣は東南北の三方は山にて包まれ、西は大坂灣に向つて開き、大平野になつてゐる。この平野には大阪をはじめ澤山の都會が集つてゐる。

和泉國を泉州ともいふ。

本府は大阪市を中心として、鐵道、電車が網の様に通じ、又大阪港からは海運の便が開けてゐて、交通機關は全國中最も完備してゐる。

二 都 邑

大阪市 (攝津國) 我國第二の都會で、商工業の盛んなことは却て東京市を凌いでゐる。これ一つは京都、神戸をはじめ附近に多數の都會があつて、大阪市がその中心となつてゐるの故、鐵道と港灣の便がよく、且つ市内到るところに運河が通じてゐて、容易に荷物を運搬することが出来るので、今日の發達を遂げたのである。大阪局は市外通話の大中繼局で、これより西の各地への通話は、殆ど皆こゝで中繼される。

堺市 (和泉國) 大阪市の南約二里のところであり、鐵道と電車とで連絡されてゐる。堺は古い港であつて、酒、刃物、緞通が産出せられる。

第二十四章 和歌山縣

一 地 況

和歌山縣は紀伊國の大部分であつて、大阪府と奈良縣の南に連つてゐる。概ね山地で有名な那智山、高野山等があり、西方と南方とは海に面してゐる。山には松、杉、檜等の良材が多く、木の國の名を生じた位である。又氣候が溫暖なため蜜柑の栽培に適し、紀州蜜柑の名は全國に知られてゐる。

二 都 邑

和歌山市 名古屋、水戸と共に舊徳川御三家の城下である。紀州ネル、木綿織物等の産出が多く、又酒造業が盛んである。附近には和歌浦、紀三井寺等の名勝が多い。市外通話は大坂局で中繼する。

和歌の浦に汐みち來れば潟をなみあしへをさして田鶴鳴きわたる

萬葉集

新宮町 有名な材木の集散地である。西の方に那智瀧がある。我國第一の瀧で、高さ八十丈、晴天の日には海上より見るこゝが出来るといふ。新宮への通話は大坂局で中繼する。

第二十五章 兵庫縣

一 地 況

兵庫縣は播磨、但馬、淡路の三國と攝津、丹波の一部を管轄し、大阪府の西に連り、南は瀬戸内海に、北は日本海に面してゐる。

本縣は北部は山嶽が重り合つてゐるが、南部は平野で、多量の良米を産する。交通はよく發達し、殊に神戸市は港灣が整つてゐるのみならず、東海道線と山陽線との接續點で、海陸の運輸頗る便利である。

播磨國を播州ともいふ。

縣下は酒造業が盛んで、西宮附近は灘と稱し數百の酒藏が並んでゐて、頗る美事である。産額の多いのこ、質のよいこは、日本第一である。

二 都 邑

神戸市(攝津國) 横濱と並び稱せられる貿易港で、市中頗る活氣を呈してゐる。棉花、鐵、肥料等を輸入し、綿絲、織物、マツチ等を盛んに輸出する。市内にある有名な湊川神社には、楠正成が祀つてあつて、「嗚呼忠臣楠氏之墓」と記された石碑が立つてゐる。

明石市(播磨國) 北に山を負ひ、南は海に向ひ、須磨、舞子と共に、有名な勝景の地で、廣大な邸宅や別荘が多い。

ほのくゞと明石の浦の朝霧に島がくれ行く舟をしぞ思ふ

第二十六章 岡山縣

一 地 況

岡山縣は備前、備後、美作の三國を管轄し、兵庫縣の西に連つてゐる。

南部は瀬戸内海に面して土地も平であるが、他の部分は山地で、殊に美作國は一帶に山嶽が重り合つてゐる。

鐵道は山陽線が兵庫縣より入り、本縣を経て、廣島縣に向つてゐる。本縣の物産は米、疊表、水蜜桃、備前焼等である。

二 都 邑

岡山市(備前國) 綿絲、疊表の集散地である。こゝには日本三名園の一つの後樂園がある。

第二十七章 廣島縣

一 地 況

安藝國を藝州ともいふ。

岡山縣の西にあつて、備後、安藝の二國を管轄してゐる。地勢は岡山縣に似て、南方瀬戸内海に面する部分以外は、概ね山地である。

鐵道は山陽線が東より西に通じ、又海には宇品港と吳軍港とがある。本縣の物産は有名な備後表である。

一 都 邑

山陽道と山陰道とを中國といふ。

廣島市(安藝) 宇品港を控へ、中國第一の大都會である。吳軍港はこの近くにあつて、大なる工場がある。廣嶋灣内の嚴島は、日本三景の一つである。

第二十八章 山口縣

一 地 況

長門國を長州ともいふ。

山口縣は周防、長門の二國を管轄し、廣嶋縣の西に連り、本州の西端になつてゐる。北は日本海に、西は玄海灘に、南は瀬戸内海に面し、港灣が多くて水運の便がよい。

二 都 邑

下關を以前は馬關又は赤間ケ關と稱した。下關と門司との間を關門海峡といふ。

下關市(長門國) 著名な港で、九州の門司市と相對して、瀬戸内海の門戸をなしてゐる。本港は朝鮮、九州へ渡る重要なところである。鐵道は山陽線がこゝを發して、廣嶋、岡山、姫路を経て神戸に至り、それより東海道線に連絡してゐる。この地は水陸の交通頗る便利なため、商業が發達し、殊に古來米の取引が盛んである。

第二十九章 鳥取縣

一 地 況

鳥取縣は山脈に境せられて、岡山縣の北に連り、因幡、伯耆の二國を管轄してゐる。日本海に面した部分の外は、概ね山地である。産業は農を主とし、養蠶、牧畜が盛んである。殊に牛は但馬牛の名によつて、好評を得てゐる。

二 都 邑

鳥取市(因幡國) 山陰道の中松江に次ぐ大都市で、商業が盛んである。市外通話は大阪局で中繼する。

第三十章 島根縣

一 地 況

鳥取縣の西に連り、出雲、石見、隱岐の三國を管轄してゐる。隱岐を除く外は、地勢は殆ど鳥取縣と同じである。出雲國は太古の史蹟に富み、有名な出雲大社がある。

史蹟
あとの
れきしの

二 都 邑

松江市(出雲國) 山陰道第一の都會で、宍道湖に臨み、水陸の交通に便利で、商業が盛んである。市中にある大橋は、長さ百餘間、山の姿水の色、風光絶佳と稱せられてゐる。

市外通話は大阪、岡山の二局で中繼する。

第三十一章 香川縣

一 地 況

讃岐國を讃州ともいふ。

香川縣は四國の東北部に位し、讃岐國一帯である。

瀬戸内海に面した部分は、勝景の地に富み、殊に本縣に屬する小豆島は、奇巖と紅葉とにて、海内絶景の一に數へられてゐる。

本縣には有名な金毘羅神社がある。

縣下の電話は大坂高松間直通電話線（一部分海底線）で連絡せられてゐる。

二 都 邑

高松市 瀬戸内海に臨み、四國第一の商港である。この地の賣薬は、廣く全國に行商せられてゐる。

丸龜市 昔は中國地方との交通の要所であつて、四國遍路、金毘羅參詣の往來が盛んであつた。今も商業地として、榮えてゐる。市外通話は大坂、高松の二局で中繼する。

第三十二章 愛媛縣

一 地 況

愛媛縣は香川縣の西に連り、伊豫國一帯を管轄してゐる。

縣下には有名な別子銅山や、道後温泉がある。

本縣下の電話は廣嶋松山間の海底電話線で連絡せられてゐる。

二 都 邑

松山市 四國中屈指の大都市で、伊豫紺はこの附近より産する。俳人

子規を出したるころごとして、知られてゐる。

若鮎のふた手になつて上りけり

子規

第三十三章 福岡縣

一地 況

福岡縣は九州の北の端に位し、筑前、筑後の二國と、豊前の一部を管轄してゐる。

本縣には有名な炭坑が多く、我國の石炭産額の大半を産出する。

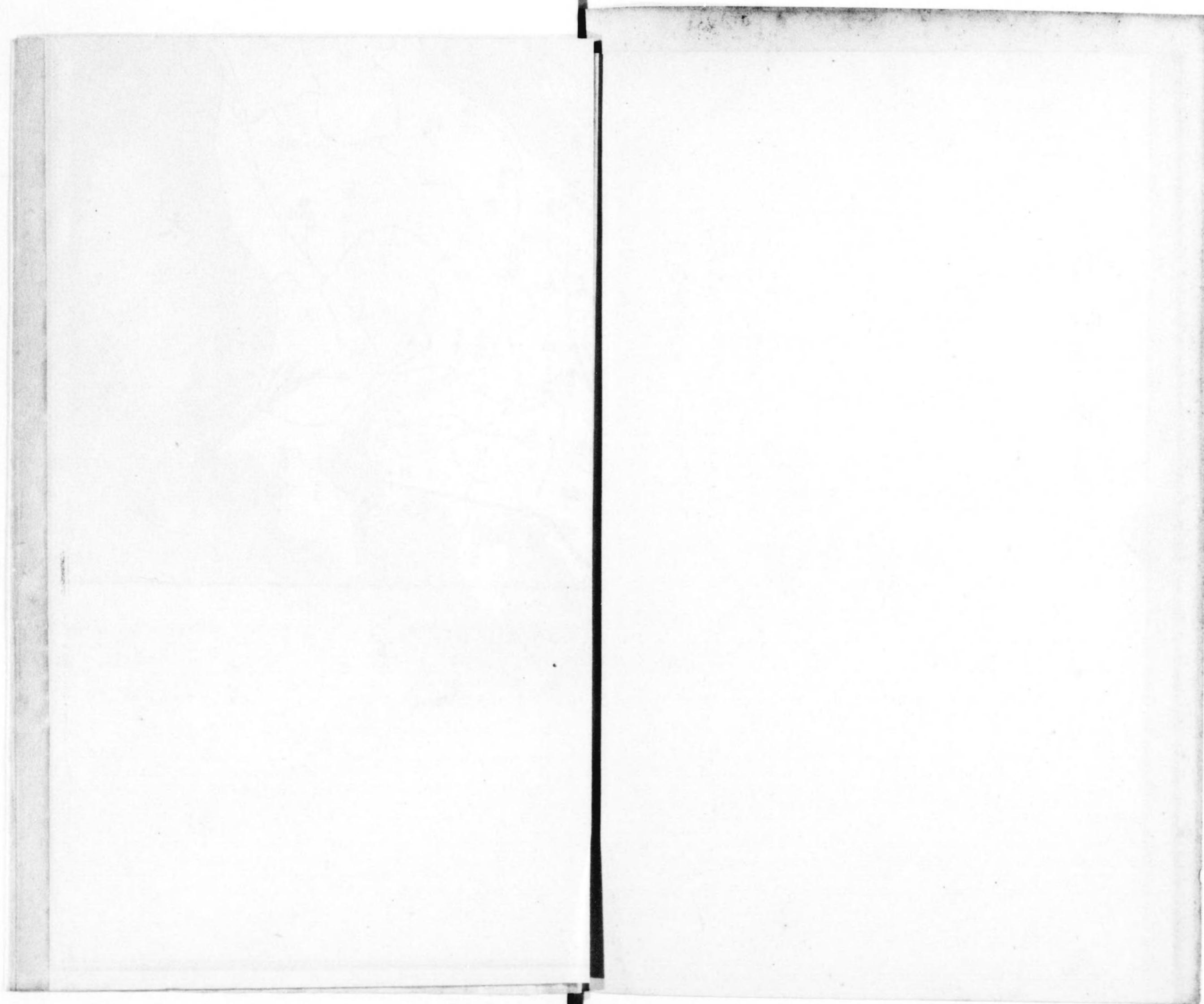
二都 邑

福岡市(筑前國) 九州北部の大都市で、古來博多の名によつて、知られてゐる。有名な筥崎宮、大宰府神社等がある。博多織、博多人形を産する。

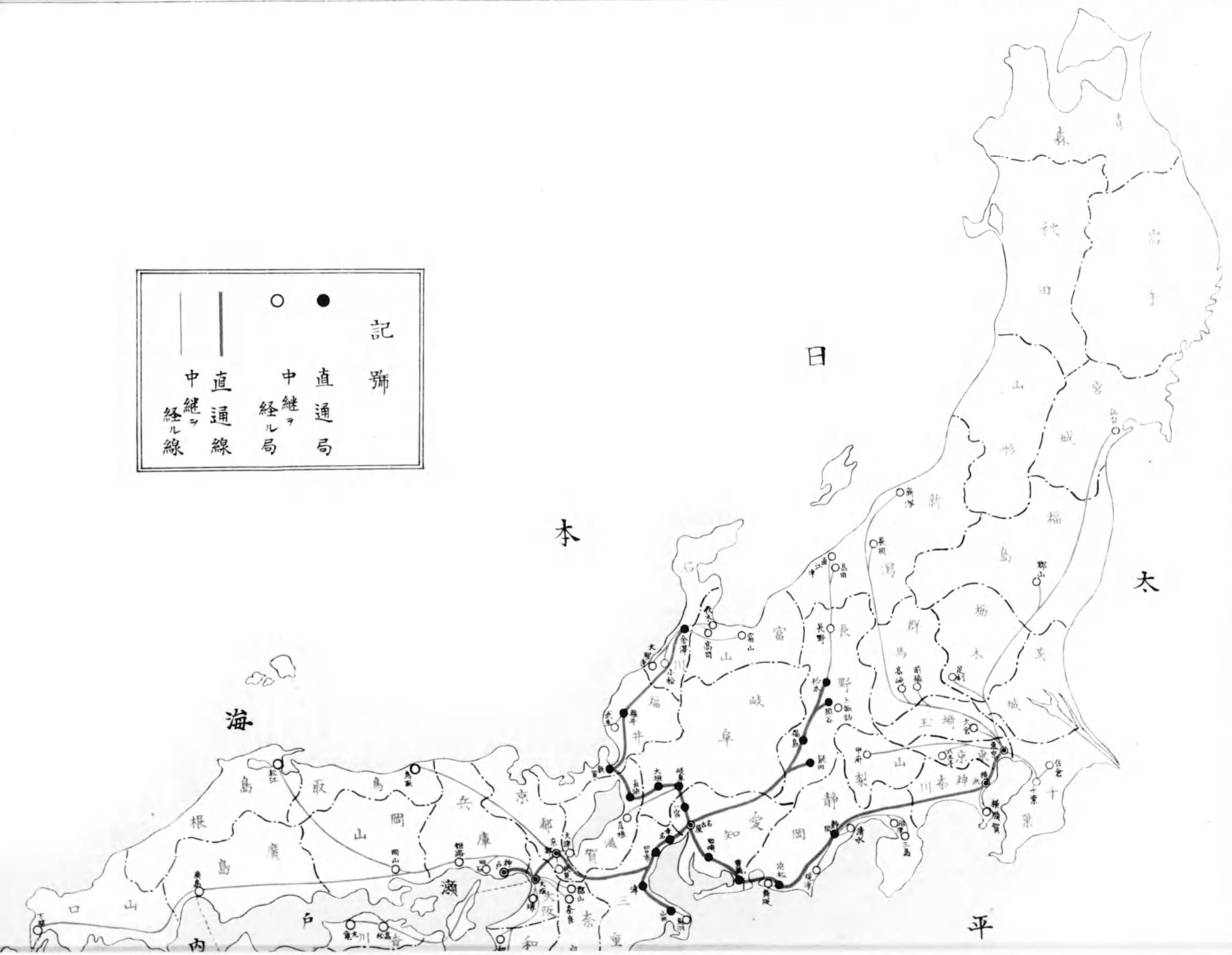
門司市(豊前國) 下關市と相對して海上約一里のころにある。鐵道連

絡船の便があり、本州より九州に入る玄關口である。附近にある若松港と共に、石炭の積出が盛んである。

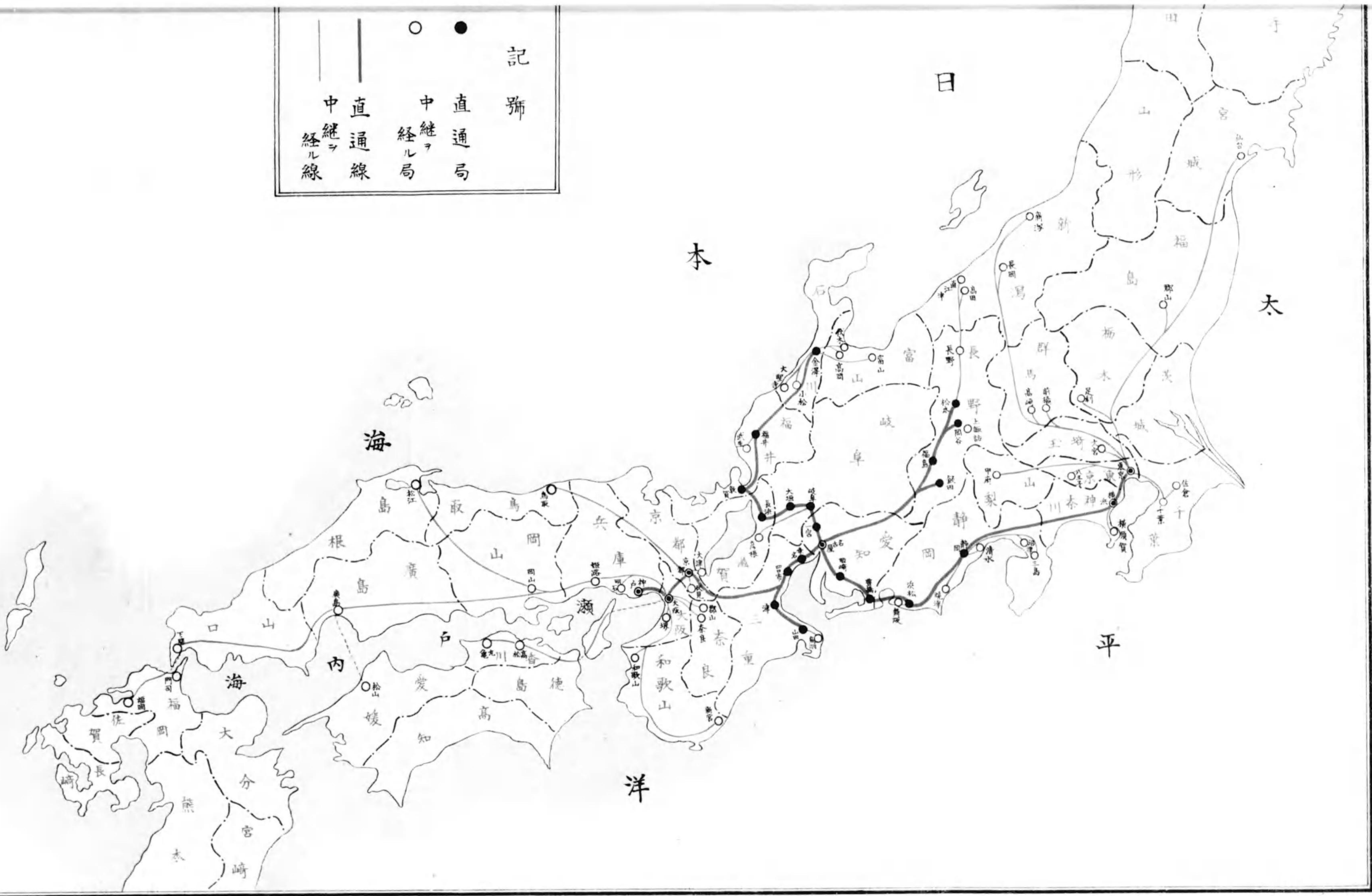
電話地理 終

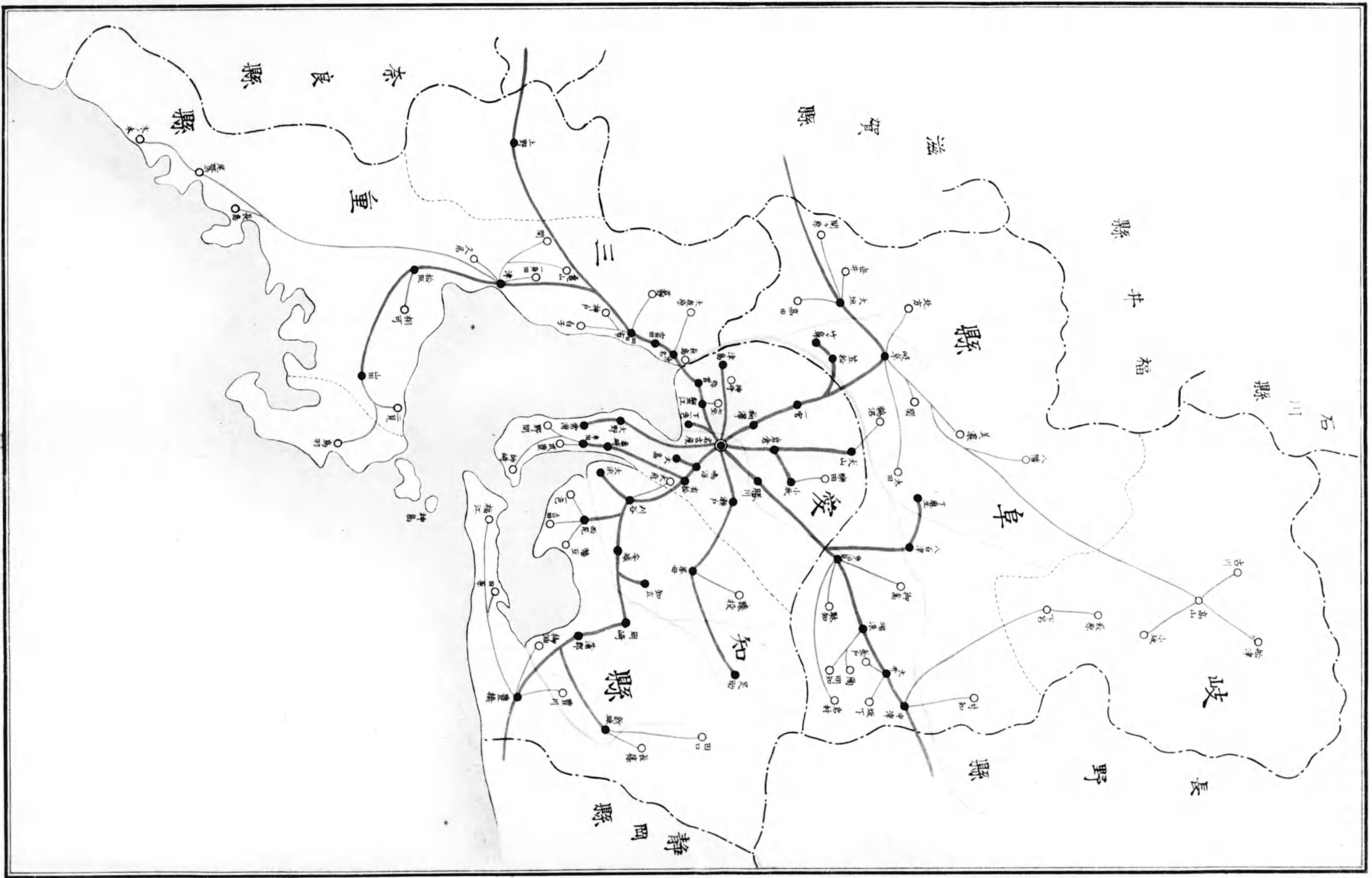


—	—	○	●	記 號
中継ヲ 経ル線	直通線	中継ヲ 経ル局	直通局	



○	●	記 號
中 繼 線	直 通 線	
○	●	記 號
中 繼 局	直 通 局	





大正十三年六月十七日編纂
昭和三年二月二十日改訂
昭和三年三月廿一日印刷
昭和三年四月五日發行

發行所 名古屋中央電話局

名古屋市東區東魚町二丁目

印刷所 野田印刷所

終